

資料名：新宿区文化芸術振興会議（第3回）議事 要旨

■日時 平成23年6月16日（木） 午後2時から午後4時まで

■会場 新宿歴史博物館講堂

■出席者

委員：高階、垣内、星山、高取、乗松、松本、大和、石丸、小口、佐藤、舟橋
委員

事務局等：酒井地域文化部長、山田文化観光国際課長、藤牧新宿未来創造財団等担当部長、鯨井新宿未来創造財団等担当課長、磯野文化観光国際係長、石塚文化資源係長、原文化観光国際主査、北見主任、楠原主任

■欠席委員：なし

■開会・委嘱

1 開会

(1) 高階会長が振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 高階会長から、本日の主要な議事は、第2回会議で調査審議事項として決定した「新宿フィールドミュージアムの実現」に向けて、議論を進め、その取り組みの方向性を振興会議として決定していくことであることの確認を行った。

また、本日の進行について、次第に沿って進行すること及び、審議を効率的に進めるため、次第の議事(2)から(4)まで一括して審議を行うことを確認した。

2 議事（要旨）

ア 第2回会議内容の確認について

議事概要、議事要旨のとおり承認を受けた。

イ 振興会議の運営（進め方）について

専門部会からの報告について、特に質疑はなかった。

ウ 新宿区文化芸術の振興に関する懇談会報告書の提言と提言実現に向けての検討及び「私たち区民」による取り組み状況について

専門部会からの報告について、特に質疑はなかった。

エ 振興会議の独自の調査・研究テーマ「新宿フィールドミュージアム」について

資料4-1から4-4-3までに基づいて、専門部会長が説明を行った。資料の詳細については、事務局が説明を行った。なお、(2)から(4)までは、時間を有効に活用するため、一括して説明を行った。

オ 意見交換（要旨）

- 専門部会の提案はよくまとまっているが、3つほど提案をしたい。
1つ目は初日に主要ターミナル駅で皆んなでチラシ、ピラ等を配布すること。はっぴでも着たらなおいいのではないかな。
- 2つ目は、まちに何か統一的なカラーの、のぼり、旗とかを置く。
- 3つ目は、今年はこれをというのを幾つか選んで、少し補助金を出すこと。今年はこれが目玉ですよ、みたいなものがあるといいと思う。
- 一般の方に、うまくフィールドミュージアムを知らせる部隊が必要だと思う。
- それぞれの参加団体に刺激を与える、又は実際に活動しやすくする方法として、補助金ほか様々な方策があり得る。
- 新宿と言った時に、普通、西口や歌舞伎町が出てくるが、四谷、神楽坂等、かなり歴史的に幅の広いものが多様にあって非常におもしろい、地域ごとに文化資源があるということに改めて感じた。
- 実現には難しい部分もあるかもしれないが、何か1つの方向性を打ち出し、それに沿って皆さんやらないかというアプローチもある。例えば劇場王国だったら、同じテーマで何かやらないとか、それと美術館も連携するなど。
- いろいろな施設とか劇場は、この文化月間以外もずっと活動している。文化月間に限って、今年はこのテーマで参加、そして分野によっては何か1つのこういう方向性みたいなことでやったら一緒にやれるかもしれない。分野にもよるが。
- いろいろなものを年ごとに、それこそ協議会やヘッドクォーターをつくる中で、参加できるような形での、広い意味でのテーマを設定する。それは、計画を立てていくと行けそうな気がする。
- 今年だったら復興支援以外はちょっとテーマが見つからない。
- 平成29年には、漱石生誕150周年。漱石をテーマにすれば、それは文学もあるし芝居もあるし、それから犬や猫の好きな人だから、猫や犬を絡めるとか。
- 劇団にしても他の団体にしても、今年は既にいろいろなことを考えているだろうから、2年後こういうテーマでやるということならば、それをプログラムにしていこうと準備するとか、いろいろな方向はあり得る。
- 今年は、この間の大震災があったから、あまり派手にやるといけないということもあるが、自粛し過ぎても具合が悪いということがある。
- 年度末に、舞台表現科の後期の発表会を、代々木のオリンピック青少年総合センターで行う予定であったが、やはり震災の影響で中止したが、このままで終われないというのが子どもたちの気持ちの中であり、急遽、校内で開催した。
- 保護者の方で席がいっぱいになって立ち見が幾人も出るような状況だったが、本当に子どもたちが生き生きとして、年度の締めくくりとして、立派な発表ができた。
- 東京芸術劇場で野田秀樹氏の劇を見たが、野田さんもこういう時こそ、演劇や芸術や歌が人々の心を癒し勇気づけるものであるということであえてやりましたと、全て義援金に回しますという宣言をされた。芸術というのは元々そういう意味があるだろう。
- 区内には、新宿高校、戸山高校、本校、新宿山吹高校と、4つの都立高校がある。それら

の文化祭の情報を資料としてこの会議に提供するが、例えば戸山高校ではTOCという、戸山オープンカレッジを設けている。学校以外の方にもオープンにしているので、情報提供の場を設け、広げていければと思う。

- 新宿のプロムナードギャラリーで、学校の夏休みの実習課題の選抜展という形で、1、2年生の30号から50号位の絵を、30、40点並べる。
- 今年の文化祭は10月22、23日の土・日に、神楽坂の仮校舎で開催する。12月の中旬以降に、神楽坂から6クラスが移転し、3月に駒場のクラスが合流すれば、4月以降は12クラスの芸術の専門高校として統合され、完成型になる。
- 都立高校だけではなくて私立も入るが、東京都下の高等学校の文化連盟の美術工芸部門があり、この中央展が、信濃町のザ・アートコンプレックス・センター・オブ・トウキョウで、約100校の高校生により開かれる。
- 以上のように、高校もフィールドミュージアム構想の一翼を担うことができるのではないかとということで、情報提供させていただいた。
- 文化は見て楽しむという面もあるが、コンサートについても、東日本大震災の影響で外国のオーケストラが帰ったなどで公演ができなくなったときに、ズーピン・メータは残って無料で追悼コンサートをやった。芸術は、楽しむだけではなく、力を与えてくれるというのは確かにある。
- 悪いこと、病とか災害を防ぐ、退散してもらいたい願いを込めるなど、そういうものがお祭りになっていったということもある。そういう面も生かしながら、単に楽しんでいるだけではない面もあるということも、考える必要があると思う。
- 色々な形の取組みを、このフィールドミュージアムに次々と組み込んでいくやり方も考えていきたい。高校生の展覧会の話があったが、それもうまく組み込んで、フィールドミュージアムとしていく。
- フィールドミュージアムというものを、どういう形で新宿と結びつけていくかというのは非常に大きなポイントだと思う。
- 新宿には、いろいろなものがあるだけに、それをまとめたイメージをつくっていくことは、非常に大事だろうと思う。
- 何か1つシンボルのようなロゴがあったり、そういう告知が非常に大事だろうと思う。
- イメージづくりは、大事だと思う。
- ポスターとか、まちの中に印象付けができるようなビジュアルのものが、たくさんあるといいと感じた。
- フィールドミュージアムが、最終的にどういう状態になっているのがいいのかということ、そこに新宿区の区民の皆さんであったり、「私たち区民」という全体像があると、どういうふうに関わっているのが望ましいのかというような、状態のイメージというのができるといいと思う。
- こういう都市ぐるみだと、都市自体がイベントをすとか、それが何年かに1回の開催であったりなど、いろいろなケースがあると思うが、世界中に、ベンチマークになるような所があるのではないか。
- 『ぶらり江戸歩き』は、江戸の文化を楽しむというような切り口の本で、ガイドブック

に近いと思うが、これは都が出しているわけでもなく、民間の出版社が企画して出している。いろいろなネットワークづくりという意味でも、このように民間の出版社を巻き込んで、新宿フィールドミュージアム構想に近い形の本を出してもらおうとか、そのようなことも組み込んでいけるといいと思った。

- 書籍や、番組をつくるのかというような話もあるかもしれない。
- 既存のイベントがたくさん集まって、束ねていきましょうという話があったが、その束ねていくことと、元々束ねる意味があるという、そのつなぎのところは、やはりある程度説明が必要なのではないか。
- ビジュアルでイメージを作っていくと同時に、中身の訴求が必要。シンポジウムでも何でもいいと思うが、意見交換するような場が、どこかであってもいいと思う。
- フィールドミュージアムについては、いろいろなものがあると、デパートみたいにどこからでも入れるし、誰でも参加できる。いろいろな形があるのはいいが、実はフィールドミュージアムにおいて、そこでまちの記憶を継承し、魅力をつくり、新しい創造に向かっていくことにつながっていくような、1つのまとまったイメージが必要だと思う。
- 秋にまちに出て行くと、一般の方は、フィールドミュージアムは、何だかよくわからない、何をやっているのかということもあると思う。この話で思い出したのは、この間、ラ・フォル・ジュルネが随分評判になって、最初のうちは、あれはどこでやって、何だろうといていたものが、世界中に広まった。
- 各国が参加するベネチアのビエンナーレは、まちの中でもゲリラ的にサテライトというのが、勝手な展示会をやったりパフォーマンスをしたりする。正式参加ではないものだが、これもビエンナーレである。まち中のあちこちにロゴのついた案内があり、確かにまちぐるみでやっている。
- 日本では、去年の「あいちトリエンナーレ」も同じようにやった。あのロゴがやはり目立つ。1つ作って、トリエンナーレがやった以外に、ゲリラ的なものでも申請すればそのロゴが使えるという方式で、まちの人も、最初は何かよくわからないけど、ロゴがあって何か1つまちの祝祭のことになっていった。
- 今回の資料は見やすいが、理由を考えた時に、やはり色かと思った。フィールドミュージアムの統一したカラーが必要と思う。
- カラーがあれば、道案内などもしやすい。カラー又はマークがあればいい。
- 記号でもいいし、あとはイラストとか、俗っぽいキャラクターでもあればいい。
- 何か関心を持ってもらえるには、視覚的なものが大事ということを思った。
- 何となくまだ漠然としているものが、少しずつ一つの傘の中に入ってきたとして、統一した色やロゴがあれば、もっと関心を持ってもらえるだろうし、PRにもそれを使うことによって、やりやすいのではないか。
- フィールドミュージアムの実践例の資料をいただいたが、1つ目玉になるもの、コアというものというのは、やはり必要ではないかと思う。
- 先ほどの漱石生誕150年なら、それに合わせたいろいろなものを、演劇、美術、小説など、何か公募展をしたり、そういうことができるためにも、何か1つ目玉というものがあつた方がいいのではないかと考えた。

- 春に歴史博物館で「中村屋に咲いた文化芸術」があり、見させていただいたが、中村彝の作品があった。中村彝を知っていますかと周りの普通の人に聞いても、中々答えが返ってこないが、アトリエ整備をする前に、こういう中村彝を、ほかの方が認識できる機会があったのはすごくよかったのではないかと感じた。やはり、1つのことをやるのにも何かをつけ加えると、より広がりがあるのでのではないかと感じた。
- 新宿区のシンボルカラーはないが、シンボルになる花はツツジである。ツツジの色にしたらどうか。
- ツツジの色は、いろいろある。赤紫みたいな色が、ツツジの色なのかもしれない。
- 確かにどの色という1つに決めなくてもいいと思うが、フランスは三色旗のあの色をよく使う。レストランでも、全然旗とは関係ない所でも、赤、青、白があると何となくフランスだという感じになる。
- まちでキャラを作っている例がある。平城遷都 1300 年でキャラクターを作り、いろいろ議論もあった記憶がある。何かの形で、フィールドミュージアムの普及には、実広く一般の方を巻き込んで生かしていく方法が重要で、それは宣伝も含めて必要だろうと思う。バラバラだけではないということだと思うが。
- 文化センターのことに目が行くが、懇談会報告書の7項目の提言は、全て賛成するので、できたら全部実現できたらいいと思っている。
- 文化センターには和会議室がある。お茶をやっている人たちでも、文化センターにこんなすばらしい和会議室があることを知らないという人が多い。畳敷きで、お茶の設備もあるが、部屋が大きいために借りづらい。仕切って利用することはできないか。
- 各地域センターにも和室があり、水屋もあって、お茶席にできるようになっている。ただ、残念ながら非常に需要が低い。センターを作る時には、お茶される方は和室を作って欲しい、水屋もちゃんと作って欲しい、炉の位置もここに作って欲しいということで、和室を作るが、実はなかなか利用していただけない。
- お茶の方の要望で作ったら、今度はそこを通じてPRができるといい。
- 文化センターに和室があることを知ってもらうために、和室を使った落語の公演という新たな取組みも始め、その中で、和室がありません、いろいろ使えますとPRしている。
- お茶の会場にするのに少し大き過ぎると、料金が高いので、半分に区切って貸していただけないかという要望がある。
- ミッドタウンに新しくできたサントリー美術館が、玄鳥庵というお茶室を貸し出している。値段はわからないが、結構需要があるみたいなので、いろいろなやり方があるかと思う。
- 今回のフィールドミュージアムの資料の地図はよいが、いろいろなことが書いてあるので、全体を見るにはいいが、分野によって違う見方ができる地図も必要かと思う。
- 歩きたくなるまち、来て、見て、楽しい新宿のまちというのは本当にすばらしい言葉だと思うので、何かにつけて使っていければよいと思う。
- 具体的な広報戦略をどうするか。いろいろなものいっぱいあるのはいいが、わかりづらいところもある。例えば、音楽のステージではこういうこと、歴史の好きな人は歴史のイベントがあってというふうに、専門というか、部門別に分けるのもいいと思う。

- 前回の会議で話した子ども文化月間の冊子を、この席で配らせていただいた。11月を子どもの文化キャンペーンとして、2年目になる活動だが、都内全体でやっているということに記載している。
- 私たちは、シンポル的な活動があってというより、ボトムアップというか、区民・市民レベルでの小さい日常、子どもの日常での文化活動が子どもたちの暮らしや文化を豊かにするという形で、積み上げていくという感じで活動している。
- そういう活動を集めて、見る、聞く、遊ぶとか、カテゴリーに分けることで、こういうことができますという形で、タイトルを付けて整理している。広報としては、そういうカテゴリーで探す時に、こういうものがあるという見方も提案できるのではないかと思う。
- 東日本大震災に関連して、今、子どもたちがどういう状況にあるかというのも、少し話させていただきたい。お母様達が非常に気にされていて、遠いところよりも身近なところで、電車に乗ってというよりも歩いてバギーでとか、どうしても遠出は避けるという、そういう状況になっている。
- 新宿区は、広くはあるが、本当に身近なところでいろいろな活動があるというような形の、区民レベルの知恵と力が集まったということも見せることによって、条例の「私たち区民」の活動につながると思う。
- 期間的な活動等も大事だが、やはり子どもや乳幼児からの視点から言うと、本当に身近なところで、例えば小学校、幼稚園等のホールでもいろいろな活動ができていてということを見せることによって、様々な人たちの参加につながる。また、障害者が参加しづらい状況も緩和できて、いろいろな人が参加しやすい、優しいフィールドミュージアムになるのではないかと考える。
- 私達も11月に、小学校、幼稚園でクラウンショーを地域の人と企画して、地域で、安い価格で、全員で、地域の大人たちが子どもたちの育ちや文化活動に関する仕掛けを、区内で5カ所位考えている。
- 区のNPO活動支援サイトのキラミラネットにも登録しているが、いろいろなイベントや情報等を、比較的登録しやすく、発信もしやすい。
- 私たちも区民レベルでこういう活動で参加しますというような形で、登録もしたいし、区民レベルで発信できるというような状況があると嬉しい。
- 文化活動についても、誰もが登録すれば発信できるというような敷居の低いネットがあればという気がする。
- 子ども文化キャンペーン資料の「アルニョス」という言葉は造語で、スペイン語で子どもがニニョス、文化はアルテスというので、これらを付けたが、これをキャンペーンの基本ロゴとして定着させていこうと作った。
- 我々はオーケストラであり、室内という限られた空間で活動してきた。フィールドミュージアムという考え方がイメージとしてあったわけではないところもある。
- 今日の資料を見ていたら、フィールドミュージアムのイメージ図で初台から先あたりが消えているが、ここに大きな文化施設がある。やはりエリア的意見も必要かと考える。
- 一番重要なのはテーマということで、何かテーマを決めて、それに対して集中的にやっ

て、アピール度を高めるといような取組みだが、今回は、逆にすべてのものを入れてやっているが、問題はそこから先だと思う。

- オペラシティの夏の催し物「アートシャワー」の資料を持ってきた。これは、オペラシティの中で、もう7年間続けている音楽祭だが、非常に地域的なものもやっている。
- 新宿では、他にも住友ビル等、いろいろな民間の施設がこのような小さな催し物を、10年以上にわたりたくさんやっていると思うが、そういうようなものも、このフィールドミュージアムに組み込んでいただければ、もっと広がりが出るのではないか。
- 資金的にも民間は苦しいところがあるので、それぞれ目的が違うかと思うが、こういうコンサートのところでは十分に一緒にできるのではないかと思った。
- 新国立劇場は国立、新宿区にあるコンサートホールは民間で、これをまとめるのは難しく、それで名前をアートシャワーとして、文化の集合というか、ファミリー、コミュニティを入れた文化の催し物とした。
- 新国立劇場は渋谷区で、オペラシティは新宿区。施設としては一体開発だが、真ん中に区境がある。
- 新宿区としては、区境というのを固く考えないで、その周辺の所も含めて考えている。そうしないと、例えば神田川の部分も区境が入り組んでおり、伝統産業の染色業の所もそういう話がある。
- 渋谷も「私たち区民」の中に入れてしまう。
- 文化には境はない。
- 区の文化財保護審議委員の立場から。文化財として指定される物件については、昔、いろいろ調査したものの中から候補物件の資料を作成し、それを確認するような形で指定をしている。その中で大分年月が経ってしまい、そろそろ調査をし直そうということをやっている。そういう調査の中で、フィールドミュージアムにどういう協力ができるのかというのが、自分の立場だと思う。
- 例えばお寺の場合は、仏像遺産の調査、区内にあるものの全ての調査を悉皆調査というが、まだ十分でない。やはり悉皆調査が必要だと思うのは、もう住職の代が、みんな昔と代わっており、そういう仏像に対する考え方も住職の中でもいろいろ変わってきている。それで、その悉皆調査の中で、何か協力していこうと思っている。
- 例えばフィールドミュージアムの例だと、資料の四谷のケース。ここに寺町がある。そして、区内はほかに早稲田周辺も寺町があるし、若松町の方もお寺がある。そういうところも特徴的だが、寺町の成立事情というのが大体は江戸時代の大火の後とか、明治維新、関東大震災、戦争。その時に、お寺がザアッと動く。
- また、新宿区の場合は、江戸城の外堀工事の際にまとまって移転したということもある。そういう意味で、寺町も、どこにでもあるが、新宿区の特別な理由というのを感じる。
- 東京にあるお寺は、みな江戸以降なのだが、それでもその土地の事情でいろいろ仏像の制作事情が違う。
- 例えば、足立区では瓦の地蔵、瓦の仏像等がある。あの辺は瓦を焼いていたといような。江戸以降のものは、もう歴史的に古くないのがみんな軽視をされているが、なかなか歴史資料としてはおもしろい。そういうことをもう少しきちっと調べたならば、フィ

ールドミュージアムに関係づけられるのではないか。

- そういう意味で、私がどういうことで協力できるかというようなことを考えているところは、そのお寺の悉皆調査をぜひやっておきたい。これは歴史博物館の方々との協力をいただかなければならないが、歴史博物館のサポート自体もこういうものと密接に結びつけていって、お互いに考え合っていた方がいいと思う。
- 悉皆調査の結果が、こういう所に仏像があるとか、このまちはこういう形ででき上がったとか、それを一般の方が調べる時の資料に、図書館とか資料館みたいなもの、あるいは博物館がいいのか、新宿歴史博物館でその結果がわかるような形というのが必要になってくると思う。
- 仏像の中には文化財の指定物件というのかなりあるので、部分部分ではもう情報等は調べられているが、こういうフィールドミュージアムの取組みについても単独で捉えるのではなく、歴史の中で見直す、歴史とのつながりを考えるというような視点で、今後も見ることがあるかなと思う。
- 近頃は歴史に興味を持つ方も多から、まち歩きガイド運営協議会でも、いろいろと活動されているみたいだが、フィールドミュージアムにとっては、何か歴史の、まちづくりの中で震災などの時に変わってきたということが、大きな意味があると思う。それとほかの芸術との関係が多分ある。
- 鶯鴨の地蔵通りも大変有名だが、歴史遺産というのは大事だと思う。単にまちがあるだけではなくて、それが文化の基礎になっていく。こういうお寺があるとか、いろいろなお墓があり、歴史的に重要なお墓もあるというような話は、大事だと思う。
- フィールドミュージアムの目的。この会議の前身の懇談会の中で、会長がずっとおっしゃっていた人との絆の部分、人との絆をつくる、強めるという部分が非常に重要なキーワードになっているのではないかと、ずっと思っている。
- 人との絆を強めるやり方はいろいろあると思うが、新宿区は、特に3.11の後は、フィールドミュージアムを提案するというような、今までのものと完全につながっているものがあるというのを、非常に強く感じている。
- 理想は理想として高く掲げてはいても、実際に運営する時にどうするかということだが、やはり新宿というか東京の特徴を非常に強く意識したほうがいいと思っている。
- ナントは小さなまちで、ラ・フォル・ジュルネをやると、少しそこらで音楽をやっただけでも、まちじゅうが音楽みたいな感じになる。しかし、東京のラ・フォル・ジュルネを見ると、東京国際フォーラムでやっていて、はっきり言って埋没してしまうところがあると思う。
- 新宿はもっとそうだと思う。新宿でいろいろ既存の事業があるが、1個1個を地方に持っていけば、もう完全にシンボル事業、コア事業であり、もうそれだけでその1つの何かになってしまう。
- ナントのまちは小さい。降りたら、えっ、みたいな感じで、もう駅自身も小さいという感じのところ。一方、いろいろある新宿では、何をやっても多分埋没していくと思う。
- 逆に言うと、この多様性と、蓄積というか厚みこそが、ほかには絶対あり得ない新宿の強みだと思う。それを空間でバツとくくって、フィールドミュージアムというプラットフォーム

ホームを用意するのだろうと思っている。

- その観点から言うと、遠くの理想はあるが、それまでに至る過程というのは、中・長期的な観点から今年は何か、来年は何とかいうよりは、二、三年先を見据えながら、ステップ・バイ・ステップで走りながら考えていくことが必要なのではないかと思う。今年が多分、助走期間みたいになると思う。
- 多分、今の時期は、事業は、各団体がもう決めていて、それをフィールドミュージアムに乗せてもらえるかとか、その仕組みとか、ボトルネックがあるとすれば何かとか、あるいは何か若干のインセンティブがあった方がいいのかとか、そういうところを走りながら考えていく。
- プラットホームがあると、必ずシナジー効果が生まれる。そこに集まるだけでいろいろな効果がでると思う。そのシナジー効果が次につながり、次に参加しようというインセンティブにもなっていくのだろうと思っている、まずは走ってみることが重要と思う。
- 統一感のある宣伝的な部分については、やはり色かと思う。新宿区のシンボルカラーがないというのは、少しびっくりした。
- 色で統一していくことも、非常に人間の視覚に訴える部分があるので、ありがたいうのが一つ。
- もう一つはインターネットで、やはり紙媒体だと持って歩くということもあり、あまり厚いのは難しいので、いろいろな角度から、例えば、美術が好きな方、合唱が好きな方、いろいろな方が検索しやすいようなネット環境を整えるという戦略も1つあっていい。
- ネットはお金もあまりかからないし、費用対効果を高め、結果を出すということにお金を集中することができる。広告宣伝にあまりお金をかけるというよりは、実際、実践して結果を出すということにお金をかけたほうがいいという感じがする。
- 三つ目、劇場、ミュージアムもそうだが、お客さん達は、高学歴、高所得の高齢者が多い。しかし、実際リピートするかを調べてみると、この学歴、所得は効いてこなくなり、時間的な制約という観点からか、どうしても高齢者が多くなるが、学歴とか所得とか、そういうのがなくなる。
- 1回目がやはりすごく衝撃が大きくて、1回いいと思うと、好きな人はそれにはまっていくということを非常に強く感じる。こういうフェスティバルをやって、少しでも何か感じる、経験する、初回体験をするという機会の提供にもなると思うので、とてもいいことではないかなと考え、ぜひ成功してもらいたい。
- シンボルとなる区の花としてはつつじがあって、区の旗は、「新」というのを草書で書いた。また、区民の意識調査の際に新宿のカラーを尋ねたら、オレンジとグレーだった。何か頑張っているぞ、みたいな若々しいオレンジと、くすんだ感じのグレーと、両極端に分かれている。
- グレーは、伝統的に言うと、江戸時代のねずみ色、利休ねずみとか、グレーは大変にいい色なのだが。
- 最初に新宿カラーがこれだと言うと、いろいろ反発もあるかもしれないが、何となくロゴに2色の組合せぐらいがいいかもしれない。1色というのはなかなか難しい。
- 湘南電車は、緑とオレンジが、ミカンのイメージと緑のお茶で決めたとか。つまり、そ

れとさっき最初にのぼりとか旗とか、何かそういう決まった形と色が、どこにでも出てくるとするのは、1つのイメージ・まとまりとして、進めていける。

- 委員の皆さんもいろいろなことをやっていく、アイデアを出していく。時期との関連もあるが、進めていって、それが新宿というまちとうまく結びつくためにお祭りがある。
- 広報戦略で、アルニョス・イン・東京というのは何だろうと思ひ、どのページをあけてもアルニョス・イン・東京と書いてあるが、それは造語であったり、チラッと書いてあったりという、そのような広報戦略も大事である。
- 文化というのは、人と人とのつながり。それをこれからどうやるか、当然一過性のものではないわけで、ずっと続いていくものである。
- 例えばミュージアム月間ならば、新宿には秋にはそういうのがあるのだなということが何となくわかってくるといい。例えば、ベネチアビエンナーレは、6月というともうホテルがとれない。6月に行けばビエンナーレのオープンがあってというようなことが、もう前からわかっていて、みんなそれで、ついでに何かゲリラ的なことをやろうかということになっている。
- 今年は最初の年なので、あまり多くのことはできないにしても、今までお話が出たパフォーマンス、それからまち歩き等、いろいろなまちぐるみのものをやる。さらに歴史、例えば、学校等でも工夫して、文化講座みたいなものをやる。美術館でも、美術講座みたいなものも、少し一般的ではない形のものも幅広くやる。
- 歴史遺産なら、例えば、江戸のまちづくりとか、江戸城をどう作ったとか、新宿は、家康が江戸を作った時に、端の方の内藤新宿から始まったので、時代小説等の舞台になっているわけだから、それも絡めてまちづくりの問題等の講座をこの機会に進めるとか、いろいろな形が考えられる。
- 積み上げていくということのアレンジすることとは思っているが、カラーを考えるにしても、講座の話にしても、今日の資料のプロット等を見ていくと、江戸東京でいうと、やはり文明開化以降の文学、美術、芸能。その中で、新宿の果たした役割は結構大きいと思う。
- 先ほど漱石が出てきたが、漱石以外にもいっぱいいる。芸能界とかいろいろな分野の方達が本拠として活動しているので、そういう分野を超えて、それこそ1970年位までは、日本の新しい芸術運動の中心になってきたのが、新宿というまちだと思う。だから、その辺のことを、何かつなげていくようなおもしろいテーマ設定というのはあるかと思う。
- 新宿歴史博物館も、確か文芸に関する展示がある。ジュリアートのいろいろな展示があるし、漱石のこともあるし、いろいろな芸術家が住んで活動を展開してきたまちが新宿。それと、お寺の話も伺ったし、何か日本の、東京の芸術運動みたいなもののイメージを少し持ててもいいのかなと思う。
- テーマ設定については、協議会でやるか、ヘッドクォーターをつくるか、あるいは、そういういろいろな分野の人が集まったところでやるのか、もう少し先のことを含めて議論をする場所を考えるという方向はあり得ると思う。
- 文化月間の意義をずっと考えていたが、資料を改めて見ていて、やや弱いような気がした。文化月間の意義、戦略的な意義。集中的・連続的発信ということを書いてあるが、

- このフィールドミュージアムは5年、10年かけて積み上げていく、高層・先駆的なイメージだとすると、その柱を立てて建物を上に積み上げていくとか、もう少し壮大なところ、スカイツリーを建てるクレーンみたいな、文化月間でしっかりこう持ち上げていくような、何か文化月間の戦略的意義みたいなのをはっきり書いたほうがいいと思った。
- もう1点は総合芸術高校のお話を聞きながら思ったが、高校生、中学生は、ぜひフィールドミュージアムを自分たちで観覧して回り、それを報告するというのを、ぜひ毎年やりたい。
 - 例えば、小・中学校の義務教育期間については、今進めている議論に沿って教育委員会に、区のレベルでぜひご提言いただいて、年間行事の中に組み込んでいただけるような取組みにさせていただけると、随分違うと思う。
 - いろいろな議論があったが、それらを全て一時にこのフィールドミュージアムでバツとできないと思う。できる部分からやって、積み重ねていくことが重要だと思う。
 - この会議の独自の調査・検討テーマが新宿フィールドミュージアムだったが、今年度は、文化月間の設定と歴史文化遺産を活用した新宿の魅力の発見が柱で、その中でどういうことができるか、そして、それを既にあるものも含めてうまくまとめるためにどうすればいいか。よいシンボルを付けられれば、ずっと続けていけると思う。
 - パイロット事業の実施について、どうすればいいのか、本日の議論を踏まえて、専門部会でもいろいろ議論しながら進めていっていただきたいと思う。少し夢のような話が出てもいいし、さし当たって、まずはこういうことからという話で考えただいてもいいと思う。どういう形のもので、既に行われているものも含めてできるか、あるいは今後とも進めたらいいかということ、次回の会議でお示しいただきたいと思う。
 - 委員の方々も、それぞれご自分の活動を通じてフィールドミュージアムについて何となくはわかっているけれど、フィールドミュージアムの輪郭をはっきりつかまえられるようにしたいわけで、これは一般の方についても同じことだと思う。そういうことも考えながら、専門部会でもいろいろ検討をいただきたいと思う。
 - 皆さんも自身でぜひお考えいただき、あるいは既にご検討されていれば、進めていただきたいと思う。

3 次回日程等について

第4回振興会議は、平成23年9月頃を開催することとし、詳細な日程や会場等については、後日事務局から連絡をすることとした。

また、公益財団法人新宿未来創造財団の事務局長に藤牧功太郎、新宿文化センター館長に鯨井庸司が新たに着任したことを紹介し、両氏があいさつを行った。

4 閉会

会長のあいさつをもって、16時に閉会した。